



第二六三回北斗句会(令和七年四月二日)

五十音順 特選 石田きよし選

春の野の宵の寂しや吾一人

大崎石州

人襲ふ基地と化したる鴉の巢

太田黒幸風

和菓子屋の旗に魅かれて桜餅

大森康正

春の朝最上階の露天風呂

川崎きこう

気怠さを懐に入れ春の昼

竹内雲泉

春の雷仏拝めと父の声

田中資凡

燐 畑打ちや寄り来る鳥の甘え声

長池豆陽

燐 屋形船しずかに分くる花筏

藤田紀潮



戦なき国にとどまる春の鴨

石田きよし

三月三十一日、北斗会花見俳句会が

国立博物館(上野)の九条館(貸切)で開催されました。

(十六名が参加、北斗句会は五名が出席) (別途報告)